

人形劇をやってみたよ！

夏井市民センターで6月から7月にかけて4回にわたり、平山巖雄さんを講師に招き、人形劇ワークショップが行われました。平山さんは仙台に住んでいたときに、NPOの地域づくり委員たちの活動に感動。地域のために何かしたいと思うようになり、大学で学んだ「人形劇」で世代間交流できないかと考え、子どもによる人形劇サークル「スマイル」を立ち上げました。仙台や山形での講演を経て、5月の大型連休には、サークルの子どもたちを久慈に呼び、もぐらんぴあをテーマとした人形劇を発表しました。



読み合わせの練習中



人形の操作を練習しました

夏井市民センターでは、夏井の子どもたちにも人形劇に触れてもらおうと「人形劇ワークショップ」を企画。6月8日の練習に参加した子どもたちは、仙台の子ども人形劇サークルの映像を見たり、台本の読み合わせなどをして、7月20日(日)に開催される「もぐらんぴあ&ちかびウォッチング」での発表に向けて頑張っていました。

使用する人形は、夏井町半崎地区の「浜の母ちゃんサークル」が制作したものです。手作りのかわいい人形にもぜひ注目してください。

もぐらんぴあ&ちかびウォッチング

- ▶日時…7月20日(日)9時30分～15時30分
- ▶会場…もぐらんぴあ周辺、久慈国家石油備蓄基地
- ▶人形劇上演時間…①10時～②13時…(各回15分程度)
- ▶人形劇上演会場…久慈国家石油備蓄基地 総合管理事務所1階 第2会議室



祝・令和 元気ハツラツ!! 市民マレットゴルフ大会開催



ホールインワンをとった久慈義介さん
「ナイスショット!!」



「おー! いった、いった!」

6月2日「市民マレットゴルフ大会」(市教育委員会主催)が宇部マレットゴルフ場で開催され、各地区から73人の市民が参加。本大会は市民がスポーツに親しみ、参加者同士が交流しながら、生涯元気なスポーツを楽しめることを目的で開催されているものです。

当日は天候にも恵まれ、絶好のマレットゴルフ日和。ホールインワンが立て続けに4本もできると、まさに白熱したプレーが繰り広げられました。

最高齢者は大正生まれの93歳、宇部地区の久慈義介さん。久慈さんは全く年齢を感じさせない素晴らしいフォームで、ホールインワンを出すという好プレーを見せていました。初めて参加したという大川目地区の石川愛子さんは「チームの人に丁寧にルールを教えてもらって楽しくプレーすることができた。またやりたい!」と話していました。

令和初のマレットゴルフ大会は、怪我もなく皆さんの笑顔がたくさん見られた大会となりました。

大会成績(敬称略)

部門	順位	氏名・団体名	打数
団体	第1位	モンキー	329
	第2位	こだま	331
	第3位	谷地中	332
個人	男子	第1位 山田 良治	78
		第2位 井戸 清士	80
		第3位 山田 實	81
	女子	第1位 鈴木 タマ	76
		第2位 中野 文子	76
		第3位 三上 登喜子	85

ホールインワン賞
内谷 ひと子、井戸 清士
田本 聖典、久慈 義介

生涯学習だより



まなびのまち

琥珀のまち生涯学習都市

No 40

2019年
(令和元年)
7月15日

発行/久慈市教育委員会(担当:生涯学習課 028-8030 若手県久慈市川崎町1番1号 ☎0194-52-2156)



アレン記念館の前で絵井を振るう熊谷先生



集中! 集中!

はじめての 絵画教室



よく観察して描こう!



「空の青色は同じ方向に、こうやって塗るんだよ」

6月26日久慈幼稚園、あーとびる麦生理事長の熊谷光子先生を講師に招き、絵画教室を開催。初夏の青空と気持ちの良い風が吹く中、園庭に画用紙とクレヨンを持ち出した子どもたちは、木や建物、友だちを自由に描きました。

熊谷先生は「線は鉛筆で書く」と黒が顔を出すので、黄色のクレヨンで主線を書くこと、「物だけではつまらないから、必ず人を入れること」「木を書くときは、木の模様も描くこと」「真っ白いものはないので、紙の白が残らないようにしっかりと塗ること」と具体的に指導していました。

先月に引き続き、二度目の指導に来た熊谷先生のことをすっかり覚えた子どもたちは「くません!」と声をかけたり「その服かっこいいね!」と親しみを持って話しかけていました。

熊谷先生は「みんな集中して頑張っていた。なかなかこうはできない。大したもんね!」と指導を受ける子どもたちの態度と集中力に感心していました。

この事業は、久慈市講師派遣事業「琥珀のまち生涯学習・ボランティアバンク」を活用して行われました。

「学校支援地域本部事業」の活動紹介

～各学校に配置されているコーディネーターが、学校を支援する地域の人と学校をつなげる役割をしています～

5月31日、宇部小学校の4年生9人が宇部川にヤマメの稚魚約1,000匹を放流しました。

この活動は同校で、長年続けられている事業。地域からは稚魚を購入いただいています。

放流前に、地域の人たちからは「生活に川の水が使われているので、川をきれいに保ていかなければならない」と話があり、児童は真剣に聞いていました。児童たちは、観察をしながら稚魚を放流し「初めて流して楽しかった」「ヤマメは本でしか見たことがなかったけれど、本物を見られて良かった」と感想を述べ、地域の人たちにお礼をしていました。



「稚魚がかわいいなあ」

ヤマメの稚魚 大きくなあれ



「大きく育ってね」

稲も子どももぐんぐん育て

5月31日、小久慈小学校の5年生が田植えを実施。学校で開会式を行った後、児童は歩いて5分ほどの田んぼに向かいました。田植えの指導をしたのは、地元農家の皆さん。児童たちは模倣になり、稲を手渡す係と植える係に分かれ、指導を受けながら、ゆっくりと丁寧に稲を植えていきました。泥に足を取られて転んでしまう子どももいましたが、みんな楽しそうに取り組んでいました。

地域の人や保護者にも協力いただき、無事田植えを終えると、指導者から「今年は植え方がきれいだし、時間も早くできました」と、参加した児童からは「みんなで協力できた。心を込めて植えることができました」と感想がありました。指導者は、20年以上前から同校に田んぼを提供し、代掻きから田植え、収穫、脱穀、収穫祭まで総合学習を支援しているとのことでした。

田んぼにはドジョウも見られ、夏になるとホタルも飛びということ。児童たちは豊かな自然の中で、とても貴重な体験をしていました。



一列になって稲を植える児童たち



「そこ、倒れてるぞ、やり直し」

講師派遣事業

ボランティアバンク

市では、市民ボランティア講師を派遣し、市民団体・グループの皆さんにさまざまなジャンルの講座を行っています。詳しくは問い合わせください。

生涯学習課 ☎ 52-2156

ボランティアバンク 新規講師

柏木 翔吾さん



遊びを通じて体の動かし方を教える柏木さん

フリーランスという保育士の新しい働き方で活動中。「保育士×トレーナー」の知識をもとに、遊びを通して子どもと大人が共に楽しみながら学び機会を提供します！一緒に「生きる力」を育みましょう！

【指導内容】

- ①子供向け運動遊び
- ②親子向けふれあい遊び
- ③高齢者向けレクリエーション

秘密基地を作ろう！

6月20日、放課後子ども教室「大川目つきチャレンジ広場」で「段ボール工作・秘密基地を作ろう！」が行われました。

たくさんの段ボールを前にして、最初はどうだろうか迷っている子もいましたが、次第に作りたいものが見えてきたようで、相談しながら作る子、黙々と自分の世界に没頭する子、子ども以上に夢中になって凝った工作をする大人もいて、にぎやかな作品が出来上がりました。

記念写真を撮ってから解体しましたが、思いっきり壊すという、家ではできない豪快な体験に、するときよりも楽しそうな子どもたちでした。



「私たちの基地かっこいい!」



「ここ押さえてね! わかったー!」

遊びを通じた子どもの育ちと大人の関わりを伝える



参加者に工作を指導する矢生先生

6月24日、市役所で「教育振興運動研修会兼放課後子ども教室活動者等研修会」が行われました。県北教育事務所の佐々木正輝社会教育主事が、地域が一体となり教育課題の解決に自主的に取り組む若手県民の運動「教育振興運動」について説明。子どもたちの「生きる力」を育むため、地域の大人と子どもたちの交流、さまざまな体験活動に取り組むこと、スマホなどの情報メディアの県内小中学生の現状を話しました。



成人式実行委員を募集します

令和2年1月12日に開催する久慈市成人式の実行委員として活動する人を募集しています。一生に一度の思い出を自分たちの力で作り上げてみませんか。ご応募お待ちしています。

▶応募資格…

①平成11年4月2日～平成12年4月1日の間に出生した人

②実行委員会（土日や夜間などに4回程度開催予定）、成人式当日に参加できる人

▶活動内容…成人式の企画、運営

（記念事業の企画や当日の運営補助・受付など）

▶応募方法…下記担当あてに電話か窓口で申し込みたいください。9月30日（月）を1次締切としますが、その後も随時受付します。

生涯学習課社会教育係 ☎ 52-2156

続いて、子ども環境デザイン研究所の矢生孝仁代表が「遊びを通じた子どもの発達と大人の関わり方について」と題し講演しました。

矢生代表は「最近の子どもたちは、既製品のおもちゃや完成された映像を見ずしてそのため『見立て』遊びができない。体験活動が少なく、言葉で説明するかわりに写真を見せたりするため、語彙数が少なく、想像力が乏しい傾向にある」「子どもが失敗をしないようするのではなく、失敗やケンカをした後で、どうすればいいか考えに対応していくことが成長につながる」「地域の大人は『上手だね』などの評価の言葉ではなく、共感する言葉をかけると、子どもは自分の表現が伝わったと喜びを感じる。他者からの評価ではなく、自分で自らを認められるようになることが『生きる力』につながる」と熱弁。参加者はさまざまな子笑顔を認め、長い目で成長を信じておろかに見守ることなどを学びました。